

雪みちを安全・快適に 歩くために

～冬期歩行者転倒事故防止に向けた提言～

北海道開発局 札幌開発建設部道路調査課

1 はじめに

本稿では、平成16年度に北海道開発局札幌開発建設部と札幌市の連携によって設立された「つるつる路面転倒防止委員会（ユニバーサルデザインによる冬期歩行者転倒防止委員会）」の2カ年にわたる活動と、冬期歩行者転倒防止活動を今後さらに広げていく上での課題と方向性について紹介します。

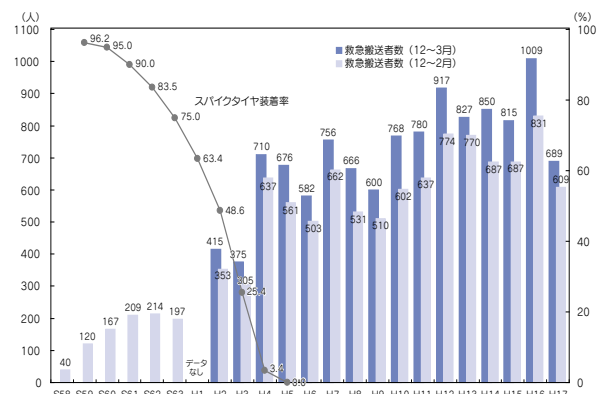
2 冬期歩行と転倒事故に関する現状と課題

(1) 雪みちでの歩行者転倒事故の現状

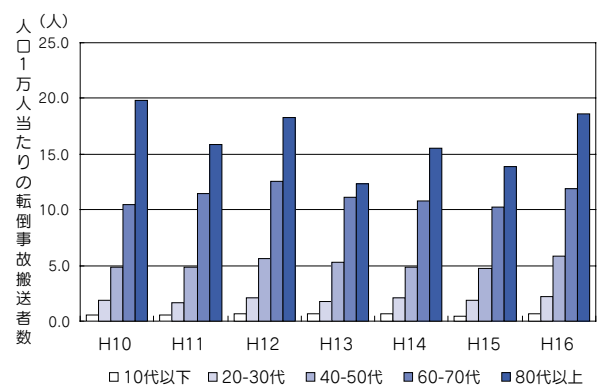
平成3年（1991年）にスパイクタイヤの使用が禁止（札幌管内の使用禁止地域指定）されましたが、札幌市消防局資料によると、平成4年以降、冬期の歩行者転倒事故が急増しています。年による増減はあるものの、毎冬約600～1000名の人転倒により救急搬送され、社会問題になっています。

各年齢層の人口1万人当たりの転倒事故搬送者数は、20～30代を基準にすると40～50代では2～3倍、60～70代では5～6倍、80代以上では8～9倍で、転倒事故は高齢層ほど発生割合が高くなっています。また、高齢になると転倒により重症となる割合が増し、大ケガにつながるケースが多いという傾向にあります。

札幌開発建設部と札幌市では平成16年度の雪まつり開催時に、冬期歩行の現状とニーズに関する



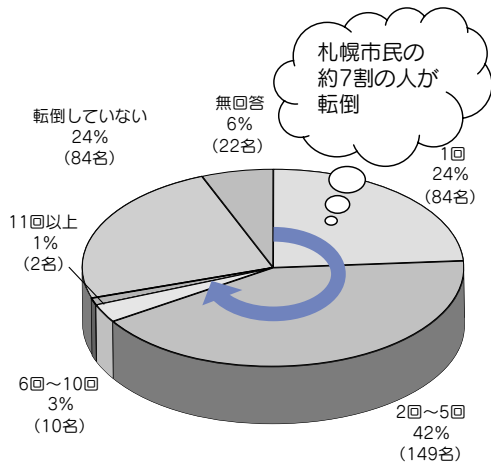
札幌市における冬期歩行者転倒事故による救急搬送者数の推移とスパイクタイヤ装着率の推移(救急搬送者数は札幌市消防局資料による)



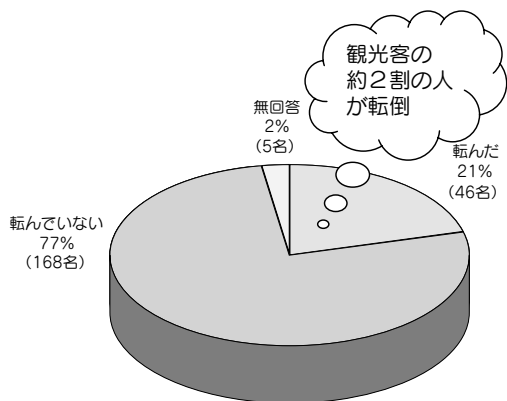
札幌市における冬期歩行者転倒事故による救急搬送者数の推移とスパイクタイヤ装着率の推移(救急搬送者数は札幌市消防局資料による)

アンケート調査を実施しました。これによると、札幌市民の7割がひと冬に1回以上転倒し、5割の人は2回以上転倒しているという結果が得られました。また、札幌雪まつりに訪れた道外および

海外観光客の約2割が、札幌滞在中に転倒していることがわかりました。こうした雪みちでの転倒事故は、札幌だけではなく、北海道内の他都市においても発生しているのが実状です。



札幌市民のひと冬の転倒回数 (平成16年度調査)



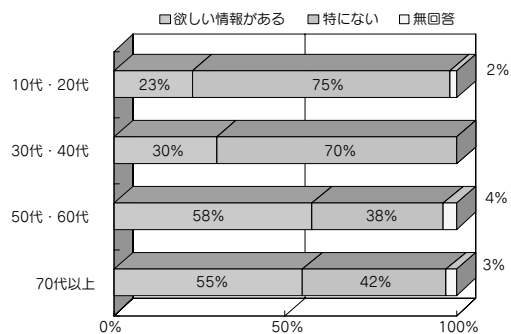
札幌市民のひと冬の転倒回数 (平成16年度調査)

(2) 雪みちでの歩行に関する利用者意識とニーズ

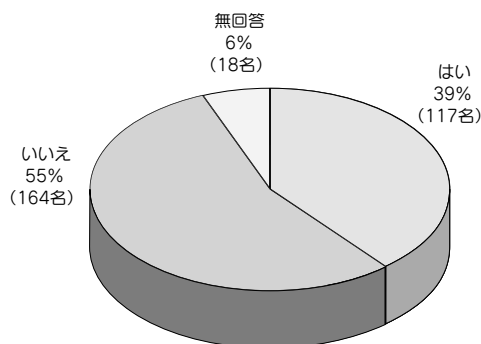
同アンケート調査によると、札幌市民の約4割は、雪みちの「歩き方」や「靴」などについて情報がほしいと回答しています。

年代別の傾向をみると、50代以上の人の約6割が情報がほしいと回答しており、高齢になるほど情報へのニーズが高い傾向にあります。

雪みち歩行に関する意識は、市民と雪に不慣れた来訪者とでは違う可能性があります。雪みちでの転倒事故の認知について尋ねたところ、道外や海外観光客の約半数の人が、「札幌では雪みちでの転倒事故が多い」ことを知らずに来札している実態が明らかになりました。こうした観光客の約半数は、市民と同様に雪みちでの「歩き方」や「靴」について情報がほしいと回答しています。



札幌市民の雪みちでの歩き方や転倒防止に関する年代別情報ニーズ (平成16年度調査)



「札幌では雪みちでの転倒事故件数が多いことを知っていますか？」との問に対する回答 (平成16年度調査)

(3) 雪みちでの歩行に関する課題

これらの冬期歩行者転倒事故やニーズ等に関するアンケート調査結果を踏まえると、雪みちの歩行が抱える課題は、以下のようにまとめられます。

- 高齢者の転倒事故が多い実態と、今後、高齢化社会が到来することを踏まえると、高齢者を対象とした冬期転倒事故防止は重要な課題。
- 北海道の観光産業が海外を含む道外からの観光客に大きく依存している状況の中、こうした人たちの多くが、雪みちでの転倒事故問題を知らないことから、雪に不慣れた観光客に対する冬期転倒事故問題への関心を高めるなどの事故防止対策は重要な課題の一つ。
- 冬に訪れる観光客のみならず、多くの地元住民が雪みちの歩き方や転倒防止に関する情報を望んでいます。この高い情報ニーズに社会が応え切れていないのが現状で、転んでケガをしないためのさまざまな情報提供の充実が必要。

3 つるつる路面転倒防止委員会の活動

上記のような課題を踏まえ、つるつる路面転倒防止委員会では、雪みちでの転倒の実態と事故防止の重要性をできるだけ多くの人に知っていただくために、さまざまな転倒防止啓発活動を行いました。

(1) 転倒防止啓発パンフレット

平成16年度には札幌市中心市街地の転倒事故発生箇所マップを掲載したパンフレットを作成し、日本語版10万部、中国語版4万4千部、英語版6千部を配布しました。平成17年度にはさらに内容を充実させ、市民向けと観光客向けのパンフレットを作成し、市民向けは5万部、観光客向けは日本語版5万部、中国語版7万5千部、英語版3万部を配布しました。



市民向けパンフレット「ころばんつ!」の裏面



観光客向けパンフレット「札幌雪道ガイド」の裏面

(2) 転倒防止啓発ビデオ

主に高齢者を対象とした市民向け啓発ビデオを作成し、札幌市内各地区で開催されている転倒予防教室等の教材として活用しました。また、道外観光客向けの啓発ビデオ（中国語、英語、韓国語）を作成し、空港で放映しました。

(3) 転倒防止啓発ホームページ

平成17年1月に「転ばないコツ」ホームページを開設。同11月にはホームページを全面リニューアルし、雪みち転倒防止に関するさまざまな情報の充実を図るとともに、雪や氷を知るための情報も掲載しました。また、外国人向けに英語版のページも平成17年12月に公開しています。



冬道を安全・快適に歩くための総合情報サイト「転ばないコツ2005」

(4) 参加型啓発活動（市民公開講座）

一般市民の冬みち歩行に関する注意喚起および情報提供を目的として、平成17年12月1日、市民公開講座「冬道を安心して歩くために」（主催：札幌市、共催：北海道開発局札幌開発建設部）を開催しました。また、この市民公開講座と同時進行で、雪みち歩行に適した靴や杖、帽子、車いすおよびユニバーサルデザインによる高齢者向けの衣服等を来場者が自由に手に取って試してみることのできる展示会を開催しました。

(5) 体験型啓発活動（雪みち歩行体験イベント）

つるつる路面の歩き方や、転ばないためのコツ、防滑靴や靴アタッチメントの効果、砂まきの効果などを実体験を通して知ってもらうため、雪まつり開催時に、「つるつる路面歩き方教室」（さとらんど会場、平成18年2月11～12日）を開催しました。



つつる路面歩行体験の様子

4 安全・快適な今後の雪みち歩行環境づくりに向けての提言

雪国の暮らしをより安全で快適にするための委員会の取組みは、各種メディアで取り上げられ、また民間企業の職員健康管理に活用されるなど、



多くの方から高く評価されています。こうした2カ年にわたる委員会の活動と議論の結果は、冬期歩行者転倒事故防止活動を進めていく上での課題と方向性として提言書に取りまとめられました。

提言書では、冬期歩行者転倒防止活動を進めていく上での方向性を、大きく次の4つに整理し、提言しています。

(1) 多分野との連携・協働

雪みちでの転倒事故を防止するためには、行政だけではなく、民間や地域団体など、多様な主体が参画し連携を図りながら、活動を継続的に広げていく必要があります。

(2) ニーズに即した多様な手段による啓発活動

雪みちでの転倒事故防止に必要な情報は、住

民、雪に不慣れな道外・海外観光客、若年世代、高齢者など、人によって異なります。また啓発手段も、パンフレット等の紙媒体からインターネットまでさまざまなものが考えられます。情報入手する場所も、家庭、職場、駅・空港などの交通拠点、集会や各種イベント会場、移動中など、いろいろな場面が想定されます。

転倒防止啓発を行う際は、利用者が必要とする情報を的確に提供することが重要です。また、提供媒体や提供場所、手段などを利用者によって適切に選択する必要があります。

(3) 他の地域への活動の展開

雪みちでの転倒事故は、積雪寒冷地であればどんな場所でも少なからず発生しているため、他の積雪寒冷地域と情報を共有しつつ、転倒事故防止の活動を拡大させていく必要があります。

(4) 活動的な雪国のライフスタイルの実現

雪みちでの転倒事故防止の啓発活動においては、事故防止だけにとどまらず、雪国特有の文化や知恵を積極的に伝え、冬を健康で活動的に過ごすようなライフスタイルを目指していく必要があります。

5 おわりに

冬を安全、快適で楽しく積極的に活動できるような社会にするためには、さまざまな組織や多くの人の協力が不可欠です。地域を広げながら、より多くの人と連携を深めつつ、活動の幅を広げていくことが必要です。本稿で紹介した冬期歩行者転倒事故の防止活動と今後の方向性を記載した提言書は、以下のホームページで参照することができます。安全で快適な冬期歩行環境づくりに向けて一読していただければと思います。

<http://tsurutsuru.jp/iinkai/proposal.html>



多分野、他機関との連携イメージ